

- (3) 大陸の黄河上流, モンゴルの乾燥地帯から日本上空に到来した空気中には氷晶核が多く, 海洋性気団中には極めて少い.
- (4) 日本上空の氷晶核の中の極めて多くの部分は黄河上流地方からモンゴルにかけての乾燥地帯に源をもっている. この附近の表土中には極めて有効な氷晶核として作用する鉱物粒子が存在すること. -13°C 以上の温度で核として作用するものがあること.
- (5) 氷晶核数が極めて少く, 雨を起させ, あるいは力学的可能降水量をすべて降らせるために十分な核数のない場合がしばしばある. 特に海洋性気団に於いては, 多くの場合核数は不十分である. 従って, 人工氷晶核の種類によって降雨を開始させ, 雨量を増大させることの可能である場合がしばしばあるものと推定される.

なお他の地域たとえば日本内地で発生する氷晶核もあるものと考えられるが, これに関しては, 今後, 他の季節において観測を行えば検出し得るかもしれない. また氷晶核物質を取り出し同定を行うことを計画している. これらについては第2報以下で報告したい.

参 考 文 献

- 1) Bigg, E.K., 1957: Tellus **9**, 394.
- 2) Smith, E.J. and Hefferman, K.J., 1954: Q. J. R. M. S. **80**, 344.
Smith, E.J., A.R. Kassander, and S. Twomy, 1956: Nature, **177**, 82.
- 3) Murgatroyd, R.J. and M.P. Garrod, 1957: Q. J. R. M. S. **83**, 522.
- 4) Soulage, G., 1958: Comptes Rendus Acad. Sci **246**, 143.
- 5) 高橋喜彦他, 1957: 気象集誌 Ser. II **35**, 137.

例 会 告 示 (I)

生気候に関するシンポジウム

日本気象学会 共催
日本温泉気候学会

日時 昭和33年10月11日(土) 9時30分~17時

場所 東京大学医学部 1号館1階

研究発表 (9時30分~12時)

1. 季節病カレンダーについて 靱山政子(気象研究所)
田中恒男(東大衛看,
公衆衛生学教室)
2. 気象変動と交通死亡について
窪田為延(東京医歯大
衛生学教室)
3. 血液諸成分の季節的変動に関する知見補遺
小泉明, 鈴木継美,
西川眞八(東大公衆衛
生学教室)
4. 血液成分の季節変動
吉村数人, 大柴進(京都
府立医大生理学教室)
5. 気候並に気象と産褥子宮収縮との関係
阿部温男, 下村正美(順
天堂大衛生学教室)

6. メニエル氏病及び鼻出血と気候変動

渡辺勉, 古本京二,
李洞海(東京医大耳鼻
科)小倉孝, 鈴木淳一,
徳増厚二(東大耳鼻科)
浜田昇次(湯河原整形
外科病院)
川上武(久我山病院)
荒木朋齊(東大物療内
科)

7. 疼痛と気象との関係

8. 喘息と気象との関係

9. 花粉と気象の関係

シンポジウム (13時~17時)

話題 気象・気候変動の生体に及ぼす影響

座長 大島良雄(東大医学部物療内科教室)

話題提供者

- 1 柏木 力(東大医学部物療内科・気象
研究所)
- 2 田多井吉之助(公衆衛生院生理衛生
学部)
- 3 神山恵三(気象研究所)
- 4 松岡脩吉(東大医学部公衆衛生学教
室)